

CA Desktop Migration Manager

DMM 展開セットアップ ガイド

12.9



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報であり、CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複製、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。

本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2014 CA. All rights reserved. 本書に記載されたすべての商標、商号、サービス・マークおよびロゴは、それぞれの各社に帰属します。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルセットで参照されている CA 製品は、以下のとおりです。

- CA Advantage® Data Transport® (CA Data Transport)
- CA Asset Intelligence
- CA APM (CA Asset Portfolio Management)
- CA Business Intelligence
- CA Common Services™
- CA DMM (CA Desktop Migration Manager)
- CA Embedded Entitlements Manager (CA EEM)
- CA MDM (CA Mobile Device Management)
- CA NSM (CA Network and Systems Management)
- CA Patch Manager
- CA Process Automation
- CA Service Desk Manager
- CA WorldView™

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: はじめに	7
概要.....	7
DMM 展開セットアップ ウィザード.....	8
第 2 章: DMM 展開セットアップ ウィザードの操作	9
マイグレーション ソリューション パッケージの作成.....	9
手動による NULL セッション共有の作成.....	13
DMM ソース共有が Active Directory にリンクされていない場合、DMM 展開が失敗する.....	14
Windows Server 2008 で、リストア フェーズ中に、DMM の適用プロシージャの実行に失敗する.....	14
第 3 章: SD/CA ITCM の CA DMM プロシージャ	17
パッケージ プロシージャ.....	17

第 1 章: はじめに

この章では、DMM 展開セットアップ ウィザードについて紹介します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[概要 \(P. 7\)](#)

[DMM 展開セットアップ ウィザード \(P. 8\)](#)

概要

CA ITCM の Software Delivery (SD) コンポーネントと CA DMM を統合するには、DMM 展開セットアップを使用します。DMM 展開セットアップ ウィザードの手順に従って操作することで、展開用の自動マイグレーションソリューションを Software Delivery パッケージとして作成できます。

作成したマイグレーションソリューションパッケージを Software Delivery にインポートすると、パッケージが Software Delivery カタログ内に表示されて選択できるようになります。作成したマイグレーションソリューションパッケージの保存場所を指定した場合は、Software Delivery へのインポートは手動で行う必要があります。

Software Delivery では、自動化された CA DMM を使用して以下に示す処理を実行できます。

- スケジュール
- 任意の台数のコンピュータへの即時の展開
- 各ユーザが個別にカタログにアクセスしてマイグレーションソリューションパッケージを選択し、マイグレーションを開始する

このガイドでは、マイグレーションの自動化と展開を行う手順を解説します。

注: DMM 展開セットアップ ウィザードは、Microsoft Windows 2000、Windows XP、Windows Vista に対してのみインストールおよび実行できません。

DMM 展開セットアップ ウィザード

DMM 展開セットアップ ウィザードは次の 2 つのコンポーネントから構成されます。

- **ウィザードベースのユーザ インターフェース**

ウィザードの実装に InstallShield が採用されているため、ユーザはガイドに従って自分で展開を行えます。作成したパッケージは、ユーザが指定したディレクトリに保存するか、または Software Delivery サーバがローカル コンピュータにインストールされている場合には自動的にサーバにインポートできます。

- **スクリプトのセット**

スクリプトは Software Delivery 独自のスクリプト言語である DMS スクリプトを使って実装されています。これらのスクリプトは最初の DMM 展開において行われた選択に基づいて、ユーザに代わってマイグレーションの構成を動的に設定します。スクリプトを使って、次の 4 つのパッケージプロシージャを実現できます。

DNA のコンピュータへの適用

以前に保存した DNA ファイルを適用できます。

NULL セッション共有の作成

DNA ファイルを保存する DMM データ ディレクトリをユーザが作成できるように、NULL セッション共有を作成します。

DMM マイグレーション ソリューション

ソフトウェア パッケージのインストール記録を作成します。

コンピュータの DNA の保存

ユーザ プロファイル、選択した設定、データを 1 個の DNA ファイルにまとめて保存します。

関連項目:

[マイグレーション ソリューション パッケージの作成 \(P. 9\)](#)

第 2 章: DMM 展開セットアップ ウィザードの操作

この章では、DMM 展開セットアップ ウィザードを実行して自動マイグレーション ソリューションを作成する手順を解説します。NULL セッション共有の作成手順についても、この章で説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[マイグレーション ソリューション パッケージの作成 \(P. 9\)](#)

[手動による NULL セッション共有の作成 \(P. 13\)](#)

[DMM ソース共有が Active Directory にリンクされていない場合、DMM 展開が失敗する \(P. 14\)](#)

[Windows Server 2008 で、リストア フェーズ中に、DMM の適用プロシージャの実行に失敗する \(P. 14\)](#)

マイグレーション ソリューション パッケージの作成

DMM 展開セットアップ ウィザードを実行して、マイグレーション ソリューション パッケージを作成します。

マイグレーション ソリューション パッケージを作成するには、以下の手順に従います。

1. DMM 展開セットアップ ウィザードを起動します。

ウィザードの言語を選択するための言語ダイアログ ボックスが表示されます。

注: ここで選択した言語が、インポートされる Software Delivery パッケージの言語としても適用されます。

2. 言語を選択して、[OK] をクリックします。

マイグレーション ソリューション パッケージの名前を示す画面が表示されます。デフォルト名は「Desktop Migration Solution」です。

3. マイグレーション ソリューション パッケージに付ける名前を入力し、[次へ] をクリックします。
4. 以下の手順のいずれかを実行します。
 - ウィザードを実行中のコンピュータが **Software Delivery** サーバでない場合、**Software Delivery** にインポートするマイグレーション ソリューション パッケージの保存場所をたずねる画面が表示されます。 [参照] ボタンをクリックして場所を指定します。
 - ウィザードを実行中のコンピュータが **Software Delivery** サーバである場合は、**Software Delivery** サーバのユーザ名とパスワードの入力を求める画面が表示されます。これらのクレデンシャルは、ウィザードの終了後にパッケージを **Software Delivery** にインポートするときに使用されます。 ログインしたユーザが **Software Delivery** サーバの管理者権限を所有している場合は、これらのフィールドは空欄のままかまいません。 ログインしたユーザが **Software Delivery** サーバの管理者権限を所有していない場合は、必要事項を入力してから [次へ] をクリックします。

DMM データ ディレクトリの場所を指定する画面が表示されます。

5. [参照] をクリックして DMM データ ディレクトリの場所を指定します。 入力するパスは UNC パスであり、さらに非表示の NULL セッション共有である必要があります。 CA Technologies DMM は System ユーザアカウントで実行され、NULL セッション共有に書き込みができるのは System ユーザアカウントに限られます。

データ ディレクトリが DNA ファイルの保存場所になります。 同じ場所に DDNARUN ディレクトリも保存されます。

注: この段階ではまだ、共有は NULL セッション共有である必要はありません。 ウィザードが作成するマイグレーション ソリューション パッケージには、NULL セッション共有を作成するプロシージャが含まれています。

6. [次へ] をクリックします。

マイグレーション ソリューション パッケージで使用するテンプレートを指定する画面が表示されます。

7. 以下のいずれかを選択します。

- デフォルトの DMM テンプレートを使用します。
- デフォルト以外の DMM テンプレートを選択します。 [参照] をクリックしてテンプレートの場所を開いて指定します。

注: 複数のテンプレートを選択できます。

- テンプレートを新規作成します。DMM Template Editor がコンピュータにインストールされていない場合、このエディタをインストールするようにメッセージが表示されるとともに、CA Technologies DMM インストール ファイルの場所を指定するよう求められます。

選択したテンプレートの一覧がテキストボックスに表示されます。選択したテンプレートをクリアするには、[すべてクリア] をクリックします。

8. [次へ] をクリックします。

マイグレーションソリューションパッケージで使用するオプションファイルを選択する画面が表示されます。

9. 以下のいずれかを選択します。

- デフォルトの DMM オプション ファイルを使用します。
- デフォルト以外の DMM オプション ファイルを選択します。[参照] をクリックしてファイルの場所を開いて指定します。
- オプション ファイルを新規作成します。

DMM Options Editor がコンピュータにインストールされていない場合、このエディタをインストールするようにメッセージが表示されるとともに、CA Technologies DMM インストール ファイルの場所を指定するよう求められます。

10. [次へ] をクリックします。

DDNARUN ディレクトリの場所を指定する画面が表示されます。DMM 展開セットアップ ウィザードは CA Technologies DMM のインストール ファイルを探し、そこから DDNARUN ディレクトリを解凍します。setup.exe ファイルが利用できない場合は、DMM 展開セットアップ ウィザードはローカルにインストールされた CA Technologies DMM を探します。いずれも見つからない場合、DDNARUN ディレクトリを指定するか CA Technologies DMM のインストール先フォルダを指定します。

11. [参照] をクリックして DDNARUN ディレクトリの場所を指定するか、または CA Technologies DMM セットアップ ファイルのあるディレクトリを指定します。

12. [次へ] をクリックします。

使用するマッピング ファイルを指定する画面が表示されます。マッピング ファイルは、ソース コンピュータとデスティネーション コンピュータを対応付けるカンマ区切りファイルです。

13. 以下のいずれかを選択します。

- マッピング ファイルを使用しません。

注: マッピング ファイルを使用しない場合、操作を実行する段階でユーザは適用ファイルを指定するように求められます。

- 空白のマッピング ファイルを作成します。DMM 展開セットアップ ウィザードに対して、後で利用するための空白のマッピング ファイルを作成するように指示します。

- 既存のマッピング ファイルを選択します。[参照] をクリックしてマッピング ファイルの場所を指定します。ここで選択したマッピング ファイルは、過去に保存した DNA ファイルに対しても自動的に適用されます。

14. [次へ] をクリックします。

インストールにおける選択項目をまとめたサマリの画面が表示されます。

15. [完了] をクリックします。

パッケージの展開が開始されます。展開の進捗を示す画面が表示されます。適用したマイグレーション ソリューション パッケージは Software Delivery にインポートされるか、またはディレクトリに保存されます。

16. [終了] をクリックします。

関連項目:

[DMM 展開セットアップ ウィザード \(P. 8\)](#)

手動による NULL セッション共有の作成

CA DMM は System ユーザ アカウントで実行されるため、DNA ファイルが保存されるディレクトリは NULL セッション共有でなければなりません。他のプロシージャの実行に先立って NULL セッション共有をセットアップする必要があります。

NULL セッション共有を手動で作成するには、以下の手順に従います。

1. regedit.exe ファイルを実行して Registry Editor を起動します。
2. 以下のレジストリ キーを見つけます。

```
HKEY_LOCAL_MACHINES¥System¥CurrentControlSet¥Services¥LanmanServer¥Parameters  
¥NullSessionShares
```

注: NullSessionShares は REG_MULTI_SZ 値です。

3. NULL セッションでアクセスしようとする共有の名前を、NullSessionShares キーに、改行後の新しい行として記述します。たとえば、DNAData\$ と入力します。
4. 以下のレジストリ キーを見つけてクリックします。

```
HKEY_LOCAL_MACHINES¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥LSA
```

5. [編集] メニューの [新規] をクリックし、DWORD 値を選択して、以下のレジストリ値を追加します。

値の名前: RestrictAnonymous

データ タイプ: REG_DWORD

値: 0

6. Registry Editor のウィンドウを閉じてサーバを再起動します。
7. 共有フォルダに次のプロパティを設定します。
 - [共有アクセス許可] に「Everyone」を追加します。
 - [セキュリティ] タブで「Everyone」に対してフルコントロールの権限を設定します。
8. Windows のローカルセキュリティ設定で、[ネットワーク アクセス: Everyone のアクセス許可を匿名ユーザに適用する] を [有効] に設定します。

DMM ソース共有が Active Directory にリンクされていない場合、DMM 展開が失敗する

症状

DSM ドメインマネージャおよびエージェント コンピュータが Active Directory 上に存在し、DMM ソース共有コンピュータがいずれの Active Directory にもリンクされていない場合、DSM エージェント コンピュータ上でのストアの展開と手順の適用が失敗します。

解決方法

Client Automation が DMM ソース共有と通信できないため、展開が失敗します。

次の手順に従ってください：

1. DMM ソース共有が利用可能なコンピュータ上で、ゲストユーザのログインを有効にします。
2. 以下の Windows 設定を使用して、ネットワークを介するゲストユーザのアクセスを許可します。
 - a. [ファイル名を指定して実行]の[名前]プロンプトに「secpol.msc」と入力します。
[ローカルセキュリティ設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
 - b. [セキュリティ設定] - [ローカル ポリシー] - [ユーザー権利の割り当て] に移動します。
 - c. [ネットワーク経由でコンピュータへアクセスを拒否する] ポリシーの下に、ゲストユーザがリスト表示されていないことを確認します。

ゲストログインはコンピュータ上で有効です。

Windows Server 2008 で、リストア フェーズ中に、DMM の適用プロセスの実行に失敗する

DMM ネットワーク共有を Windows Server 2008 以降で実行する場合、リストア フェーズ中に、DMM の適用プロシージャの実行が、いずれかのターゲット マシンのランタイム エラーで失敗します。

以下のいずれかの手順に従います。

- Windows Server 2003 SP2 で実行される DMM ネットワーク共有を使用します。
- SMB 2.0 を以下のように無効化し、Windows Server 2008 SP2 または Windows Server 2008 R2 で実行される DMM ネットワーク共有を使用します。
 1. regedit を開きます。
 2. HKLM、System、CurrentControlSet、Services、LanmanServer、Parameters に移動します。
 3. smb2 という名前の DWORD キーを追加し、値を 0 に設定します。
 4. サーバを再起動します。

第 3 章: SD/CA ITCM の CA DMM プロシージャ

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[パッケージプロシージャ \(P. 17\)](#)

パッケージプロシージャ

DMM 展開セットアップ ウィザードの実行が完了して **Software Delivery** パッケージが正常にインポートされると、パッケージが **DSM** エクスプローラに表示されます。このパッケージには次に示す 4 つのプロシージャが含まれています。1 つはインストールプロシージャであり、他の 3 つはアクティベートプロシージャです。デフォルトのプロシージャになっているインストールプロシージャは「**DMM** マイグレーション ソリューション」という名前で、最初に展開する必要があります。これを展開した後は、他の 3 つのプロシージャを繰り返し展開可能になります。

DMM マイグレーション ソリューション

デフォルトのプロシージャであり、他のプロシージャの使用に先立って最初に展開する必要があります。このプロシージャはパッケージのインストール記録を作成するもので、各コンピュータにおいて 1 回だけ展開できます。

NULL セッション共有の作成

このプロシージャは、ユーザが **DNA** データ共有を **NULL** セッション共有として登録するのを支援します。このプロシージャを展開するには、対象のコンピュータにおいて **DNA** データ共有が作成済みである必要があります。

コンピュータの DNA の保存

このプロシージャは **CA DMM** を実行し、そのコンピュータの名前を付けた **DNA** ファイルを作成します。このプロシージャは、同時に **DNA** ファイルを **DNA** データ共有に保存します。このプロシージャは繰り返し展開できます。ローカルシステムアカウントがこのプロシージャを起動する前に、**DNA** データ共有を **NULL** セッション共有として登録しておく必要があります。

DNA のコンピュータへの適用

このプロシージャは、CA DMM を実行して作成済みの DNA ファイルを復旧します。このプロシージャは繰り返し実行できます。